



APAYeNEWS

アジア・太平洋 Y M C A 同盟月報 No.01/2010 年 1 月

翻訳協力：山崎往夫

1. アジア・太平洋 Y M C A 同盟常務委員会及び常置委員会

アジア・太平洋 Y M C A 同盟常務委員会が、香港中華 Y M C A において 3 月 10-13 日に開催されます。常務委員会と常置委員会は、四力年計画に従った事業実施及び Y M C A 強化事業と他の重要な問題について話し合います。通常の会議に加えて、特別な議題として 2011 年に開催予定のアジア・太平洋 Y M C A 同盟第 18 回総会があります。会場とホスト Y M C A が決定され、関連委員会が作られます。世界 Y M C A 同盟により、2010 年の世界 Y M C A 大会の最新情報が共有されます。

リソース・モビリゼーションに関するワークショップを含めた今年の会議は、3 月 10 日の午前 9 時から 3 月 11 日の正午まで行われます。常務委員会の会議は、3 月 11 日の午後 2 時から 3 月 13 日 4 時頃まで行われます。各国の総主事は、3 月 9 日午前 9 時から午後 5 時までです。コミュニティビルディングとオリエンテーションのために、ユース委員会は、3 月 9 日午後 2 時から集まります。私たちの要請に応え、各国同盟がユースの代表を送ってくださることに感謝します。

2. 地球市民教育トレーナーズ・トレーニング、マカオ

アジア・太平洋 Y M C A 同盟は、ユース育成のための取り組みの一環として、5 月 26-30 日に地球市民トレーナーズ・トレーニングをマカオにて開催します。ユース育成のための効果的な取り組みとしての地球市民教育は、積極的な主体としてユースのニーズや問題をより理解するためのエクスポージャーと関わりのための更なる機会を提供します。このトレーニング・プログラムは、参加者が、研修で学んだことを彼らのユースワークと地元のコミュニティで生かすことができます。参加者たちが、リーダーシップの役割とユースの参画他のための取り組みを続けることができることを期待しています。私たちは、少なくとも 2 人のユースの参加者（ユースワークに従事しているボランティアリーダーとスタッフ）を期待します。

3. 地球温暖化フォーラム

地球温暖化と気候変動に対する Y M C A の立場を明確にするために、ニュージーランドのクライストチャーチ Y M C A がホストになり地球温暖化フォーラムを行いました。オーストラリア、香港、日本、インド、ニュージーランド及びアジア・太平洋 Y M C A 同盟リーダーから 15 人の参加者があり、現実と取り組みを共有することによって、地域の Y M C A ができる具体的な行動案を作りました。

ジャーナリストで気候問題に関する著名な講演者であるロッド・オーラム氏は、地元の人々の取り組みに焦点をおいて基調講演をしました。良い実行例/ケースストーリーが、クライストチャーチ市議会及びオーストラリア、ニューデリーとクライストチャーチの Y M C A により共有されました。参加者は、Hinewai 保護地区への表敬訪問をしました。香港からの環境保護主義者リスター・チャン氏は、地球規模化された世界での気候変動に対処することに関して参加型のセッ

ションを行い講演しました。彼女は、世界Y M C A 同盟代表らと共に、COP15 へ参加した経験があります。

フォーラムによって採用された声明で、参加者は地球温暖化の主因に関与取り組み、影響を受けやすいコミュニティへの影響を最小にすること、そして、多くのY M C A が自らの炭素排出量を減らすことを表明しました。彼らも、350ppm 未満のCO₂-e レベル達成の目標を受け入れ、気候変動の影響を減らすことを助け彼らのふるまいと行動を適応させるために励まし責任をとることを表明しました。行動の10ポイント計画も、現実化する方へ向けられます、それは、(1)それぞれのY M C A におけるCO₂排出に関する調査、(2)地域や国レベルでの“Y M C A グリーンチーム”の発足、(3)省エネの推進(化石燃料からの転換)(4)ゴミの削減・リサイクルの推進(5)植林および森林の保護、(6)(地球温暖化に関する)新規啓発プログラムの開発(7)グリーン・テクノロジーに関する知識・経験・技術の分かち合いのためのファシリテート、(8)化石燃料を排出する交通機関利用の削減、(9)啓発およびロビー活動(10)カーボン・オフセットの推進

* 日本からは岡山Y M C A の太田直宏氏総主事と熊本Y M C A の藤原かおりスタッフが参加しました。

『THE YMCA』3月号「YMCAと環境」に報告が掲載されています。

4. 諸同盟からのニュース最新版

Y M C A - K B ラオアティ インターナショナル・コーディネーター会議開催

ホスト/パートナーY M C A、韓国Y M C A 連盟、国民銀行とアジア・太平洋Y M C A 同盟の代表たちが韓国ソウルで2010年1月12-16日にラオアティ・インターナショナル・コーディネーターのための会合をしました。パートナーたちと代表者たちは、2009年のラオアティプログラムを共有し、評価しました。彼らは今年の計画も検討し、一部のユースの参加者たちはプログラムの効果について彼らの報告とフィードバックをしました。

第3回目参加者の30人のユースたちは、コミュニティで3月3日から8月3日まで5ヵ月間のボランティア作業を行い、またY M C A 事業にも携わります。特定されるパートナー/ホストY M C A は、タイ(チェン・マイ)、マレーシア(クアラルンプールとペナン)、フィリピン(Nueva Ecija)、スリランカ(モラトゥワ)、ベトナムとカンボジア(ダイル・コミュニティ)です。アジア・太平洋Y M C A 同盟からは、クリスティーナ・デローペが代表し、ラオアティ参加者の10日間の韓国での教育プログラムの一部としてユースと女性問題に関してセッションをファシリテートするために招かれました。

東ティモールY M C A、2つの図書館を増設

2つの新しい図書室が、地元のコミュニティとともに東ティモールY M C A によって建てられました。1つはディリキャンパス大学の既存の図書館のそばのY M C A 本部事務所で、もう一つはタシトル小学校にできました。そこは、テラ・サンタからおよそ500メートル離れたところにあります。これら2つの図書室は、東ティモールの人々、特にユースと学生のために非常に役に立ちます。ボランティアとY M C A のメンバーが、英語とインドネシア語の本をテトゥン語(東ティモールの公用語)を翻訳しました。完成の式は、去る2009年12月18日に行われ、東ティモールスタッフとメンバー、ディリ大学教師と講師、小学校校長と学生が参加しました。このプロジェクトは韓国Y M C A 連盟のコーディネートで、KOICA(韓国の国際協力機構)によって支援されたものです。

スリランカYMCA同盟より

地球市民育成教育基礎研修プログラムが、スリランカで学生のために開発されました。地元のYMCAはその実施において直接責任を持ち、5つの地域で学生を対象にし、3ヵ月以内におよそ500人にプログラムを行いました。環境相互依存、多文化共存、健康と関連した問題は、地球市民育成教育基礎研修の3つの焦点領域です。

国際的人道主義者でありY-ケア・インターナショナルの創設会長であるテリー・ウェイト氏が、去る2009年12月にNCYスリランカによって組織された**和解のための人民外交セミナー**で講演しました。そしてクリス・ロールス氏(Y-ケア・インターナショナル総幹事)と共に、Y-ケアパートナーの津波住宅計画と職業訓練センターを訪問しました。ウェイト氏も平和と和解に関して市民集会で講演しました。最近まで続いていた30年に及ぶ武装対立で大きな影響を受けた人々も出席しました。

インドの多宗教理解での平和と解放の役割を担う

『インドの多宗教理解での平和と解放の役割を担う』ことに関する全国協議会は、去る2009年12月にインドYMCA同盟によって開催されました。協議は、同国YMCAを通してコミュニティの調和を醸し出し、異なるコミュニティ、宗教と信仰に基づく伝統の平和的共存を進めることでYMCAの関わりを強化する方向づけが狙いでした。議論は多くのYMCAにインパクトと影響を与えることを期待して、市民社会との関わりで価値ある提案と革新的な考えを生み出しました。YMCAで行われる最大限実施される様々なことと同様に新たな洞察と展望が共有されました。このことは、来たるべき日にそれらの隣接した社会とコミュニティで地元YMCAにより意味あるフォローアップを確かなものとし強めることが、この協議の成功に寄与しています。P. J. オーメン教授(アジア・太平洋YMCA同盟副会長)が基調講演をして、異なるサブセッションがインドの社会の広大な横断面を越えて選ばれたリソースパーソンたちによって行われました。

5. エキュメニカル・ニュース...パートナー団体...及びネットワーク

アジア・太平洋YMCA同盟は、第4回エキュメニカル・パートナー/NGO地域会議を開催

第4回エキュメニカル・パートナー地域会議は、去る1月29日にアジア・太平洋YMCA同盟で開催されました。2008年7月の最初の会議以来、パートナー諸団体は私たちの地域の中で様々な検討事項で事業を強化し発展させる際に、協力の重要性と協力関係の新しい形態を強調しました。この前の会議が2004年に開催されたことを思い起します。参加者は、エキュメニカル・グループ/NGOのこの地域での協力を復活させるイニシアティブを取る事に対し、彼らの感謝をアジア・太平洋YMCA同盟総主事に表明しました。コミュニケーションを取ることで、アイデアを分かち合うこと、パートナーシップと同盟を築いて、共通の目的に対して共に働くことの必要性は、続けられなければなりません。

最初の共同作業としてパートナー団体は共通の検討事項に移動労働者に焦点を絞ることを決めました。アジア・太平洋YMCA同盟は、メトロYMCAシンガポールで去る2009年12月に行われたジェンダー問題と移動労働者に関するワークショップのレポートの要約/提言を分かち合いました。この会議の参加者は、彼らの考え方と協力できる努力のいくらかをわかちあいました。アジア・移住者センターとアジア・太平洋YMCA同盟は私たちは、移動労働者に関する問題に取り組むために他のパートナー団体と協調して先導してゆきます。

異宗派間の平和学校、2月1日に始まる

異宗派間の協力フォーラムの第4回平和学校は、アジアキリスト教協議会とアジア・太平洋Y

MCA同盟がEEDにより財政的に支えられている共同のプログラムで、インドのバンガロールのヴィスタールで開催されています。15週間のプログラムは2月1日から5月14日までです。バングラデシュ、ビルマ、カンボジア、インドネシア、ネパール、フィリピン、タイとベトナムからの20人の参加者が、今年の平和学校に参加します。プログラムがはじめられた2006年初めから、アジアの異なる信仰と国籍からなる20から30才の合計49人が、このプログラムに参加しました。

イージーネット中心のチーム、マニラで会合

エキュメニカル・アジア太平洋学生および会員である6団体の代表からなるユース・ネットワーク(EASY Net)中心チームが過去の活動を評価するため1月23-24日フィリピンのマニラYMCAで会合を持ちました。会合ではそのエキュメニカル団体を強化するための戦略に議論を集中させ、その制度の徹底的な検証をしました。この年は2つの主要なプログラムがあります。1つは、創造的な文章の書き方ワークショップ指導者トレーニングが6月、第2は、EASY NET 週の祭りが10月です。両方のプログラムは、草の根のエキュメニズムを進めることを目的とします。EASY NETは、2011年にそのエキュメニカルの道程10年を祝おうとしています。

私たちは、バングラデシュ、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ミャンマー、パキスタン、フィリピンとスリランカのYMCAがエキュメニカル団体と共にエキュメニカルな協力とネットワークをより深くより効果的あるレベルに向け努力を続けるように願っています。

7. ハイチに支援を

去る2010年1月12日にハイチを襲ったマグニチュード7.0の大地震に影響を受けた人々に、私たちの失望感と大きい悲しみをお伝えします。祈りの中に愛されるものを失った人々、この災害で大いに苦しんでいる人々、及びハイチの家族とコミュニティに緊急のニーズ/癒しを届けるために働いている者すべてを覚えましょう。

どうぞ世界YMCA同盟の呼びかけに応え、そして、ラテンアメリカ・カリビアン同盟(LACA)の癒しと復興支援事業を支え寄付を続けてください。以下の人々にすべての約束と募金を申し出てください: マウリシオ・ヴァンダルシ、LACAの総主事、(secretariogeneral@lacaymca.org) ノルベルト・モロー、LACA理事長(nathaliecoo@hotmail.com)とサイモン・ブルーエス、世界同盟(simon.pluess@ymca.int)です。または、あなたの国の同盟に連絡願います。

8. 特別記事：国際婦人デー、3月8日

ジェンダー公正と女性権利拡大に基づいた私たちの認識を増やし続ける努力をする中で、私たちは国際婦人デーに関するこの情報をお伝えします。

毎年世界中で、国際婦人デー(IWD)は3月8日に祝われます。いろいろなイベントが女性の経済、政治、社会的業績を示すために3月一杯行われます。これは、平等、正義、平和と発展のために戦った女性のための希望の日、勇気の日、祝いの日なのです。IWDは、歴史を作るものとしての普通の女性の物語です;その根っこは、何世紀も遡ります-女性が男性と等しい基盤の上で社会に参加する古い葛藤です。

1975年に、国連は国際婦人デーとして3月8日に祝い始めました。女性の日の遵守の決議を採択する際に、国連総会は、2つの理由をあげました:(a)確固とした平和と社会的進歩の事実を

認めること、人権と基本的な自由の完全な享受は、女性の活発な参加、平等と発展を求めるものです。(b) 国際的な平和と安全を強化することに女性の貢献を認めること。

女性の地位向上を模索し、男性と女性間のより大きなパートナーシップを進めようとする Y M C A にとって、私たちは地域および各国の Y M C A が国際婦人デーを祝うように促します。今年のテーマは、「平等の権利、機会均等：全てへ進歩」が焦点です。Y M C A は世界的及びローカルでのジェンダー問題を反映する活動を組織することを奨励されています。

9. パート・シャハ博士、卒業生優秀賞を授与されました！

世界 Y M C A 同盟の総主事であるパート・シャハ博士が第 60 回香港大学創立記念日の卒業生優秀賞の受賞者に選ばれたことに祝意を表します。彼がアジア・太平洋 Y M C A 同盟総主事である間に、シャハ博士は上述の大学で哲学博士号 (PhD) を取得されました。受与式は、香港で 2010 年 2 月 6 日に行われました。

10. 発表！2010 年は、ユース国際年です！

2009 年 12 月 18 日の国連総会が 2010 年 8 月 12 日に始まる年をユース国際年とする決議を採択したことを皆さんと共有します。偶然にも、1985 年に第 1 回国際青年年が開催され、その 25 回目の記念日と時期が同じです。

(<http://social.un.org/youthyear/> で詳細な情報がわかります)

参加してください！私たちは、Y M C A が若者参加の重要性と有益性のさらなる理解を促進する活動を組織し、彼らにインパクトを与えている挑戦を克服する際にユースの熱意、創造力とエネルギーを利用するように促したいと思います。

11. イベント/会議予定

日付	イベント	会場
3月9日	総主事会議	香港
3月9日	ユースとリーダーシップ・ディヴェロップメント委員会	香港
3月10-13日	常務委員会及び関連会議	香港
3月10-11日	リソースモビライゼーション・ワークショップ	
3月11-13日	常務委員会事務局	
5月26-30日	地球市民教育指導者トレーニング	マカオ

12. 総主事デスクより-「2010年の抱負」

2008年1月から始まった4年総会期の前半が終わったところです。ちょうど折り返しのところに入る2010年をどんな年にするのか、その抱負を述べさせていただきます。総会期の4カ年計画は、Quadrennial Program Plan と呼んで QPP という言葉を使っています。QPP 3つの重点課題について説明します。

QPP 1. グローバル社会における Y M C A の責任 (地球市民として) と働き

2008年3月のAPAY 常務委員会（毎年3月に開催）で、盛り沢山のワークショップが提案され、それを2008-09年に実行しました。そしてこれらの会議や研究会から出されたものを2010年に実行に移す予定です。 displays

- 1) 地球市民としての役割を考える円卓会議（08年5月、マニラ・比）
- 2) 地球市民の役割/ユースによる円卓会議（08年7月、東山荘）
- 3) 地球市民教育フォーラム（08年10月、東京）
各国で地球市民教育が実行できるようにするためのTrainers Trainingをスタッフやユースの代表を交えて5月下旬にマカオで実施予定。
- 4) YMCAによる観光プログラム開発（09年6月、チェンマイ/タイ）
4月にはYMCAのネットワークを活かした教育的な観光プログラムやワークキャンプなどを専用のWeb Pageに掲載。Yからのプログラムを募集。
- 5) 貧困と持続可能な開発を考える会（09年8月、ニューデリー・インド）
- 6) 高齢者へのプログラム開発（09年9月、ペナン・マレーシア）
YMCAがすべき高齢者対象のプログラムとしてボランティア育成、生涯教育とし、アジアで資源が少ない国々で共同提案していく予定。
- 7) ジェンダーと移住労働者を考える会（09年12月、シンガポール）
移住労働者を送り出している国のYMCAでの研修や事前知識など、受け入れ国との連携の中で開発し、他のNGOとの協働で実行。
- 8) 地球温暖化を考える会（2010年1月、クライストチャーチ・ニュージーランド）
グリーンチームをAPAY、国レベル、ローカルレベルで組織し、YとしてCO2排出削減、環境保全などの方法を検討し、実行。

QPP2 . 平和と正義の推進のために

「平和と安全を考える円卓会議」が、2009年2月にスリランカのコロンボで開催されました。その結果、地域によってかなり違いがあるという配慮から4つの地域に分けて、平和に関する共通項目を検討することになりました。他の会議に併せて南アジアで8月に、東南アジアで9月に実施しました。School of Peaceという異なった宗教をもつ若者を対象にした3ヶ月のコースが紹介され、YMCAとしての参加を求めました。また、APAY Partnership Project (APP)という新しいプロジェクト（年5千ドル以下の規模）を提案してそれにスポンサーを見つけ、YMCA間、あるいはワイズとの交流と理解を促進する取り組みが始まりました。School of Peaceは、APAYとアジアキリスト教協議会の共催事業でドイツの資金を得て毎年行っています。3ヶ月は長くYMCAスタッフには参加は無理なので、1ヶ月の研修を実施する方向で検討しています。APPに関しては、ことし18のプロジェクトが出され、それぞれにスポンサーを探し出し、4月以降に実施予定です。この秋にはその第2弾を始める予定です。

QPP3 . 持続可能な発展を目指して

この目標のためには相当の理解と協力が必要です。YMCAの持続可能な発展のためにさらに3つの目標を置きました。

目標1) 弱いYMCA運動への支援：私は、昨年6月の赴任後、多くの加盟国を訪ね、実情を視察してきました。その結果、今年の重点的支援対象国として支援国会議 (Partners Support Group)を組織する国を、カンボジア、東チモール、そして新たにインドネシアに置くことにしました。そのほかに、ベトナム、フィジー、バングラデシュ、ネパール、パキスタンなどその隣国とも密接な連絡を取り支援する予定です。APAYだけでは丁寧にはできないと考え、アドバイザー（退職主事）にも国を指定して訪問してもらい、連携を図るという制度を開始する予定です。

目標2) ユースの力：若い人たちをYMCAの中核に据えるためには、プログラム開発と同時にユースの関心を促す仕組みが必要です。日本でも行っている地球市民教育を各国で実施すること

ができれば、国際的なつながりを持つ YMCA でユースはより重要な役割を持つようになると思います。そのために、APAY でユース委員会を強化し、7月には各国のユースの代表や担当スタッフを集めて行う Youth Council (世界同盟ユースフォーラムの直前) を実施し、来年の Youth Assembly につなげる発展を期待しています。また、Young Professional という若手のスタッフを採用し、ユースの働きを促進することを提案しています。また、学生 YMCA (Uni-Y) もこの地域の集まりとしては3回目の会合を12月に開催します。

目標3) 資金の獲得: これまでに述べた活動を実施するためには、資金が必要です。ユース委員会に来てくださいますといっても航空運賃が出せない国が半分以上です。Young Professional を採用するのもこれまでの財布からは出ません。どこの国においても、YMCA が人の成長を促し、社会を変える働きをする団体としてより力をもつようにならなくてはと思います。そのためのファンドレイジングを APAY 全体で考えています。また、QPP で挙げた目標を実行するためには、その働きに賛同する団体(ワイズや助成財団など)へ積極的に資金を求める予定です。最後に、孤立しがちで弱い YMCA 運動には、小さい支援を何年かに一回するようなやり方では、弱さを維持する働きだけになってしまいます。しっかり3ヵ年、5ヵ年の目標を置き、自立できるための仕組みと人づくり、プログラム作りが必要です。そのために APAY の中で8つの国(日本、韓国、香港、台湾、シンガポール、インド、オーストラリア、ニュージーランド)に協力を仰ぎたいと願っています。

神様が私たちの働きを見守り、希望を与え、力を与えてくださいますよう祈ります。そして神様から与えられた YMCA が、地球市民として平和と正義、持続可能な発展を目指し、一歩でも前進できますよう祈ります。

アジア・太平洋同盟 総主事 山田公平

主任主事 Cristina A. Dalope & Jose Varghese

アジア・太平洋YMCA同盟

23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail ~ office@asiapacificymca.org
